

第3学年 音楽科指導案

本時の主張

本時は鑑賞「メヌエット」の1時間目となる。アとイ2つの部分の旋律を聴き、それぞれの曲想と共にその変化と〔共通事項〕との関わり気付くことをねらう。以下3つの手立てを行う。

- ① 動きを変化させた理由を問うことで学習課題を生み出す。
- ② ア イの部分に合わせて体を動かし動き方とその理由を問うことで、曲想と〔共通事項〕の関わりに着目させる。
- ③ 2つの図形譜を提示しア イどちらの旋律かを考えさせることで、曲想の変化と「リズム」「旋律」の関わり気付かせる。

導入でア→イの途中まで3拍子の指揮をしながら楽曲を聴かせる。イの部分で「指揮を変えた理由」を問うことでア→イで曲想が変わったことに気付かせ学習課題へとつなげる。次にア イの部分の音楽に合わせて体を動かさせ「どんな風に動いたのか」を問う。さらに「なぜそう動いたのか」も問う。子どもの意見を引き出し「動き」「感じ（曲想）」「気付き〔共通事項〕」に分類しながら板書でまとめていく。子どもは「曲の感じが変わったのはリズムが変わったからではないか」と、曲想と〔共通事項〕の関わりに着目することができる。しかし具体的にどう変わっているのかまではまだ気付いていない。そこで、図形譜を提示しア イのどちらの旋律かを考えさせる。子どもは旋律の特徴を視覚的に理解し、曲想の変化と「リズム」との関わり気付く。さらに図形譜に旋律の線を書き入れることで、「アは旋律の動きがゆるやかだけどイは上下ジグザグに動く」等、曲想の変化と「旋律（音の動き）」の関わりにも気付くことができる。

以上の手立てを行うことにより、子どもは曲想と「リズム」「旋律」などの〔共通事項〕との関わりを感じ取りながら聴くことができる。

1 題材名 曲の感じを生かそう

- 「メヌエット」 ベートーベン 作曲 (鑑賞)
 「山のポルカ」 岡部 栄彦 編曲 チェコ民謡 (鑑賞・器楽)
 「帰り道」 若松 敏 作詞・作曲 (鑑賞・歌唱)

2 題材の目標

- 音色、リズム、旋律や歌詞の内容と曲想との関わり気付く、それらを生かして表現するための技能を身に付ける。 【知識及び技能】
- 楽器の音色、旋律の反復や変化が生み出す曲のよさなどを見い出しながら曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現について思いや意図をもったりする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 楽器の音色、旋律の反復や変化が生み出す曲想を味わって聴いたり、曲想にふさわしい表現の工夫して歌ったり演奏したりする学習に進んで取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想の変化と、「リズム」「旋律」等の〔共通事項〕との関わりについて気付くと共に、思いや意図に合った表現をするための技能を身に付け、リコーダーで演奏している。	旋律の反復や変化、音色、リズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出す曲のよさなどを感じ取りながら聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫してどのように歌うかについて思いや意図をもっている。	同じリズムの反復や旋律の変化が生み出す曲想を味わう学習に進んで取り組もうとしている。

4 題材と指導の構想 (全6時間)

(1) 題材と児童

- ① 児童について
- ② 題材について

本題材「曲のかんじを生かそう」では、「メヌエット（鑑賞）」「山のポルカ（鑑賞・器楽）」「帰り道（鑑賞・歌唱）」の教材を扱う。全6時間で感じ取った曲想を器楽や歌唱の表現に生かす構成となっている。

2年生では、「様子を思い浮かべよう」の題材で楽曲の背景にある具体的なイメージを思い浮かべながら聴いたり演奏したりする学習をしてきた。それらを生かして3年生では、「曲全体の雰囲気」を感じ取りながら楽曲を聴く学習を行っていく。

「メヌエット」はドイツの作曲家ベートーベンの作品であり有名な3拍子の舞曲である。様々な楽器の演奏で親しまれているが、本題材ではバイオリンとピアノで演奏された編曲版を扱う。なめらかで優雅な雰囲気の「ア」の旋律と、軽やかにはずむリズムが跳躍的な「イ」の旋律の対比により、旋律の特徴や曲想の変化を感じ取りやすい楽曲となっている。ア→イ→アの三部形式で構成されている。

「山のポルカ」はよく知られたチェコ民謡で、原曲はA→B→Aの三部形式である。本題材では軽快なリズムのAの部分を教材とする。8分音符を中心とした軽やかなリズムの旋律で、4段全て同じリズムで構成されているが旋律は変化している。2年生時に鍵盤楽器で演奏した既習曲であり、メヌエットと同じ踊りの曲であることもあり、子どもたちにとって親しみやすい楽曲である。

「帰り道」は友達とのふれ合いをテーマに作曲されたオリジナルの愛唱歌である。時々出てくる付点のリズムが優しい感じを生み出す「ア」、フレーズの終わりに向かって音が上行する「イ」、楽曲を締め括る「ウ」の3つの旋律から構成されている。子どもにとって身近な題材を歌詞にしているため、自分の体験と重ねながら曲想に合った表現を工夫して歌い方を考えることのできる教材である。

(2) 指導の構想

① 鑑賞の学習では

鑑賞の学習として、「メヌエット」「山のポルカ」「帰り道」を扱う。

「メヌエット」では、曲想及びその変化と、「リズム」「旋律」等の〔共通事項〕との関わりについて感じ取りながら聴く学習を行う。なめらかで優雅な雰囲気の「ア」の旋律と、軽やかにはずむリズムが跳躍的な「イ」の旋律に合わせて体を動かし動き方とその理由を考える。ここで「曲の感じが変わったのはリズムが変わったからではないか」と、曲想と〔共通事項〕の関わりに着目させたい。また提示された図形譜が「ア」と「イ」どちらのものかを考えることで、曲想の変化と「リズム」「旋律」との関わりに気付かせたい。その後踊りに名前をつけたり様子を想像したりすることを通して、曲全体を味わって聴けるようにしたい。

「山のポルカ」「帰り道」の楽曲でもそれぞれの1時間目に鑑賞の時間を位置付け、楽曲の特徴を感じ取らせる。「山のポルカ」では楽器の音色を味わった後で、リズム打ちや階名唱を通して同じリズムの反復や旋律の変化に気付かせたい。「帰り道」では、歌詞と自分の体験を重ねたり曲の感じが変わるところを考えたりすることを通して、曲想と旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりに気付かせたい。

② 器楽と歌唱の学習では

器楽の学習では「山のポルカ」を、歌唱の学習では「帰り道」を扱う。

「山のポルカ」では、鑑賞から気付いた音色や同じリズムの反復、旋律の変化を生かして、曲想に合った表現を工夫して演奏する学習を行う。2年時では鍵盤楽器での演奏を体験しているため、3年時でも演奏に取り組みやすいと考えられる。旋律がどう変化しているかに着目して、同じリズムの反復となっている部分をどう工夫するのかを考えさせたい。

「帰り道」では、曲想と旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりへの気付きを生かして、曲想に合った歌い方を工夫する学習を行う。「やさしくなめらかに歌う」「はっきり歌う」「盛り上げてうたう」など、様々な方法を試し、それぞれの部分にはどれがピッタリなのかを考えさせる。その際、旋律の特徴や歌詞、体験から想起した自分の思いを根拠として工夫をさせていきたいと考えている。

5 題材の指導計画（全6時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評価		
		知	思	主 評価規準
1 本 時	○ 「メヌエット」の「ア」と「イ」の旋律について、「ア」と「イ」の部分に合わせて体を動かし動き方とその理由を考えたり、どちらの図形譜かを考えたりすることを通して、曲想の変化と、「リズム」「旋律（音の動き）」との関わりに気付くことができる。 ・ 「ア」と「イ」で音楽がどう変わったかを考える。	○		曲想及びその変化と、「リズム」「旋律」等の〔共通事項〕との関わりについて気付いている。

2	○ 「メヌエット」の楽曲について、踊りに名前をつけたり様子を想像したりすることを通して、曲全体を味わって聴くことができる。 ・どのように踊っているかを想像する。		○	曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。
3	○ 「山のポルカ」の楽曲について、リズム打ちや階名唱を通して、同じリズムの反復や旋律の変化に気付き、曲想を味わう活動に進んで取り組むことができる。 ・旋律の特徴や変化を考える。		○	同じリズムの反復や旋律の変化が生み出す曲想を味わう学習に進んで取り組んでいる。
4	○ 「山のポルカ」の楽曲について、反復と変化の部分の演奏の仕方考えることを通して、思いや意図に合う演奏技能を身に付け、リコーダーで演奏することができる。 ・どのように表現したいかを考えて、リコーダーで演奏する。	○		曲想の変化と、反復変化等の〔共通事項〕とのかかわりに気付くとともに、思いや意図に合った表現をするための技能を身に付け、リコーダーで演奏している。
5	○ 「帰り道」の楽曲について、歌詞と自分の体験を重ねたり曲の感じが変わるところを考えたりすることを通して、曲想と旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりに気付くことができる。 ・曲や歌詞の表す様子を想像したり旋律の特徴を考えたりする。	○		曲想と旋律の反復や変化、歌詞の内容との関わりに気付いている。
6	○ 「帰り道」の楽曲について、様々な歌い方を試したりすることを通して、曲想に合った歌い方を工夫することができる。 ・曲想に合った表現を工夫して歌い方を考える。		○	曲の特徴を捉えた表現を工夫してどのように歌うかについて思いや意図をもっている。

6 本時の計画（1時間目/6時間）

(1) 本時のねらい

メヌエットの $\boxed{ア}$ と $\boxed{イ}$ の旋律について、 $\boxed{ア}$ と $\boxed{イ}$ の部分に合わせて体を動かし動き方とその理由を考えたり、どちらの図形譜かを考えたりすることを通して、曲想の変化と「リズム」「旋律（音の動き）」との関わりに気付くことができる。（知識）

(2) 本時の構想（具体的手立て）

本時は鑑賞の1時間目となる。 $\boxed{ア}$ と $\boxed{イ}$ 2つの部分の旋律を聴き、それぞれの曲想と共にその変化と〔共通事項〕との関わりに気付くことをねらう。

次時では、本時の学びを生かして $\boxed{ア} \rightarrow \boxed{イ} \rightarrow \boxed{ア}$ を通して聴き、曲全体を味わう。

① 動きを変化させた理由を問うことで学習課題を生み出す。

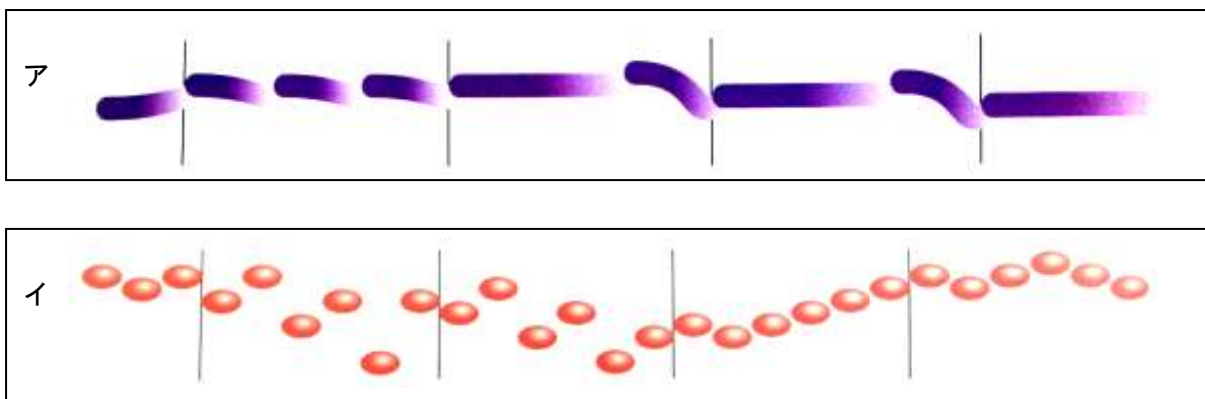
『メヌエット』が踊りの曲であることを確認した後で、 $\boxed{ア} \rightarrow \boxed{イ}$ の途中まで3拍子の指揮をしながら楽曲を聴かせる。 $\boxed{ア}$ の部分の音楽に合わせて指揮をしていた子どもは $\boxed{イ}$ の部分で若干指揮を変えることが予想される。ここで「リズムが変わった！」と気付いて指揮を変える子ども、具体的には分からないが音楽の感じが変わったから変える子ども、両方がいると予想される。全体で「なぜ指揮を変えたのか」を問うことで、「 $\boxed{ア} \rightarrow \boxed{イ}$ で音楽の感じが変わったこと（曲想が変わったこと）」に気付かせ曲想の変化に目を向けさせたい。また「音楽がどう変わったのか」を問うことで「リズムが変わったのかな」と具体的に何がどう変わったのかの疑問を引き出し学習課題へとつなげたい。

② $\boxed{ア}$ $\boxed{イ}$ の部分に合わせて体を動かし動き方とその理由を問うことで、曲想と〔共通事項〕の関わりに着目させる。

「ア」と「イ」では、音楽がどう変わったのだろう」と課題をもった子どもに、「ア→イ」の音楽に合わせて動こう」と投げ掛ける。席から離れて音楽に合わせて体を動かさせたり、座って体を動かし指揮をさせたりする。「イ」の部分で動き方を变えた子どもに「どんな風に動いたのか」を問い、「ア」では歩いて「イ」では小走りをした」などの動きの言葉を引き出す。さらに「なぜそのように動いたのか」を問う。子どもは「ア」はゆっくりのリズムだったけれど、「イ」は速いリズムになったから」などの理由を話すと思われる。ここで出された意見を「動き」「感じ（曲想）」「気付き（共通事項）」に分類しながら板書でまとめていく。その過程で子どもは、「曲の感じが変わったのはリズムが変わったからではないか」と、曲想と〔共通事項〕の関わりに着目することができる。

③ 2つの図形譜を提示し「ア」「イ」どちらの旋律かを考えさせることで、曲想の変化と「リズム」「旋律」の関わりに気付かせる。

「曲の感じが変わったのはリズムが変わったからではないか」と、曲想と〔共通事項〕の関わりに着目した子どもたちであるが、まだ具体的にリズムがどう変わっているのかについては気付いていない。そこで、以下2つの図形譜を提示し「ア」「イ」のどちらの旋律かを考えさせる。子どもは「ア」と「イ」の旋律が全く違うこと」「長いリズムから細かいリズムに変わったこと」を視覚的に理解する。ここで曲想の変化と「リズム」との関わりに気付くことができる。しかし「旋律（音の動き）」への気付きには至っていない。そこで、「ア」と「イ」両方の旋律の図形譜に旋律の線を書き入れる。すると「ア」は旋律の動きがゆるやかであるのに対して「イ」は上下ジグザグに動くことが分かりやすくなる。ここで「ア」と「イ」の部分をおきながら手を動かしてみる。ここで子どもは、曲想の変化と「旋律（音の動き）」の関わりにも気付くことができる。



(3) 本時の展開

	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■ 評価規準○留意点
導入 1 課題をもつ (10)	T 1 今日は音楽を聴いてどんな曲かを考えてみましょう。これからある曲を流します。「走っている曲」「踊っている曲」どちらの感じがするでしょうか。 C 1 (メヌエット「ア」の部分の途中までを聴く) C 2 分かった！踊っている曲だ。 T 2 どうしてそう感じたのですか。 C 3 ゆったり静かな感じの曲だから。 T 3 確かに「ゆったり静かな感じ」がしますね。どんな感じの踊りでしょうか。 C 4 優雅な踊りかな。 T 4 そうですね。この曲は踊りの曲。ベートーベンが作曲した「メヌエット」という曲です。3拍子でピアノとバイオリンで演奏されています。では3拍子の指揮をしながら聴いてみましょう。 (メヌエット「ア→イ」の途中までを聴かせる)	○ 2枚の絵を提示し「ア」の部分の途中までを聴かせる。 ○ 中世の踊りの絵を提示し、優雅に踊る「ア」の部分の様子を共有する。 ○ 3拍子の指揮をしながら聴かせ、「ア→イ」の変化に気付かせる。

	<p>C 5 (イの冒頭部分を聴いて) あれ? (イの部分で指揮を変える) T 5 途中で指揮が変わりましたね。どうしてですか。 C 6 途中から音楽が変わったから。 T 6 途中から音楽が変わったのですね。では音楽が変わったと思うところで手を挙げましょう。(メヌエットア→イの途中まで聴かせる) C 7 あっここで変わった。(イの冒頭で手を挙げる) T 7 最初をアだとすると、確かにここから音楽が変わってイの部分になっていますね。どう変わったのでしょうか。 C 8 う～ん。何が変わったのかな。 C 9 速さが変わったのかな。リズムが変わったのかな。</p> <p>(学習課題) アとイでは、音楽がどう変わったのだろうか。</p>	<p>○ 指揮が変わった理由を問うことで曲想の変化に目を向けさせ、どう変わったかを問うことで具体的に何がどう変わったのかに疑問をもたせる。</p>
<p>展開 2 アとイで音楽がどう変わったかを考える。 (25)</p>	<p>T 8 アとイでは、音楽がどう変わったのでしょうか?ではアからイの音楽に合わせて立って動いてみましょう。そしてイの音楽に変わったところで動きを変えてみましょう。 C 10 (アでは歩いてイでは小走りをしてしながら聴く) C 11 (アではゆっくり体を揺らしてイでは小刻みに体を揺らして聴く) T 9 どんな風に動きましたか。 C 12 アでは歩いてイでは小走りをした。(=動き) C 13 アではゆっくり体を揺らしてイでは速く体を揺らした。(=動き) T 10 なるほど。イでは小走りをしたり速く体を揺らしたりする動きに変えたのですね。Aさんの動きを見て確かめてみましょう。 C 14 (Aさんの動きを見る) 確かにイでは小走りになっている。 T 11 どうでしたか。 C 15 アでは歩いてイでは小走りになっていた。ぼくと同じだ。 T 12 どうしてそう動いたのでしょうか。 C 16 アはゆっくりのリズムだったけれど、イは速いリズムになったから。(=[共通事項]) C 17 アはゆったりした音楽だったけれど、イは楽しい感じの踊りになったから。(=曲想) T 13 なるほど。だから動きを変えたのですね。これは旋律を図にした楽譜です。(旋律の図形譜を提示する) どちらがアでどちらがイの旋律でしょうか。 C 18 わかった! こっちがアでこっちがイだ! T 14 どうしてそう思うのですか。 C 19 アは長く伸びているけれどイはボールみたいだから。 C 20 アは長いリズムだけれどイは細かいリズムだから。 C 21 ゆっくり長いリズムから細かいリズムに変わった! T 15 アとイで音楽がどう変わったかが分かってきましたね。他に変わったことはないでしょうか。 C 22 う～ん。何だろう…。 T 16 (図形譜に旋律の線を書き入れる) C 23 あっ! 音の動き方が違う。アよりイがすごく動いている。 C 24 イは上と下を行ったり来たりしてジグザグになっている。 T 17 音楽に合わせて手を動かして試してみましょう。 C 25 (アとイの音楽に合わせて手を上下に動かして聴く)</p>	<p>○ 音楽に合わせて立って動かせる。立って動くことに抵抗がある子どもは座って体を動かしたり指揮をしたりすることも認める。 ○ 動きとその理由を「動き」「感じ(曲想)」「気付き[共通事項]」に分類する。 ○ 速さとリズムの区別は難しいので、融合された意見も許容する。 ○ 速さに関する意見が出た場合は指揮をして速さが変わっていることを確かめる。 ○ 旋律の図形譜からアとイで「リズム」が変化したことをおさえる。 ○ 気付かない場合は図形譜に旋律の線を書き入れる。 ○ アとイに合わせて手を上下に動かして音の動きの違いを体感</p>

	<p>T18 どうでしたか。</p> <p>C26 アとイで全然違う。</p> <p>C27 アは少しだけどイは上と下でジグザグ。</p> <p>T19 つまりアとイでは、音楽がどうか変わったのでしょうか。</p> <p>C28 音の動きが少しからジグザグに変わった！</p> <p>T20 最後にもう一度ア→イを聴いて、リズムと音の動きが変わったか確かめてみましょう。</p> <p>C29 (ア→イを聴く)確かにリズムと音の動きが変わっているな。</p> <p>T21 まとめをします。アとイでは音楽がどう変わりましたか。</p> <p>C30 リズムが細かく音の動きがジグザグに変わった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(まとめ)</p> <p>リズムが細かく音の動きがジグザグに変わった。</p> </div>	<p>させる。</p> <p>○ 速さに関する意見が出た場合はまとめに加える。</p> <p>○ ア→イを聴いて、リズムと音の動きが変わったかを確認させる。</p>
<p>終末</p> <p>3 振り返る。 (10)</p>	<p>T22 振り返りをします。この後まだ音楽には続きがあります。アかイどちらの音楽になったかを書きましょう。またそう考えた理由も書きましょう。「リズム」「音の動き」がどうなったかも書けるといいですね。</p> <p>C31 わたしは、アの音楽になったと思います。なぜなら、細かいリズムからゆったりしたリズムになったからです。</p>	<p>■ 曲想の変化と、「リズム」「旋律」等の〔共通事項〕との関わりについて気付いている。</p>

(4) 本時の評価

①評価方法

振り返りカードを基に評価する。

②評価規準

曲想の変化と、「リズム」「旋律」等の〔共通事項〕との関わりについて気付いている。

B評価の具体的な姿

振り返りカードに①「アの踊りになったこと」と共に②「そう考えた理由」が「リズム」もしくは「音の動き」に関連した内容で記述されている。

(まとめにあれば速さの記述も加える。両方書いてあればA)

(例)

・わたしは、アの音楽になったと思います。なぜなら、細かいリズムからゆったりとしたリズムになったからです。

→下線部の記述がB規準

7 参考文献

- ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料 [小学校音楽]」
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター2020